

羽村市版事業仕分け「公開型事務事業外部評価」 議事録

実施日	平成 23 年 11 月 13 日（日曜日）
会 場	市役所 4 階会議室（第 2 会場）
事業名	8 地域健康づくり事業
出席者 （敬称略）	【コーディネーター】金子憲 【仕分け人】双木達雄、西野礼子、小山克也、栗原悦男、毛利ちひろ
担当課	福祉健康部 健康課
質疑応答	<p>（説明者）※配布資料に基づき説明</p> <p>（評価員）評価シートに『「はむら健康の日」や「健康づくり講座」は、30～60 歳代の方の参加が少ない』とあるが、どのような原因なのか。</p> <p>（説明者）「まだ自分は大丈夫だろう」という意識があることが考えられる。イベントは土日に開催しているが、仕事をしている世代でもあり、参加する時間が取れないということもあるかもしれない。</p> <p>（評価員）60 歳代の参加者が少ない原因はなにか。</p> <p>（説明者）60 歳代前半は現役に近い世代でもあり、まだ健康にそれほど不安を感じていない部分もあるかもしれない。60 歳代後半になると、自分の健康に不安があり、参加が多くなっているのだろうと考えている。</p> <p>（評価員）健康づくり講座の内容が、高齢の方が参加するような内容であるので、若い世代が参加しない要因の一つにもなっていると思う。若い世代向けの講座などは考えているか。</p> <p>（説明者）地域健康づくり講座は、地域の要望に応じて開催している。講座を依頼される方々が高齢者の団体であることが多いので、講座の内容も高齢者向けの内容が多くなっているという現状であり、若い世代が興味を持てる内容の講座を考える必要があると考えている。</p> <p>（評価員）健康づくり推進員が町内会・自治会にいるが、なかなか活動の実態が見えてこない。活動の呼びかけはどのように行っているのか。</p> <p>（説明者）地域によって取り組みの温度差があるのは承知している。健康づくり推進員や健康づくり講座の認知度を上げていくことが必要であると考えている。「健康づくり推進員だより」を年 2 回発行し、町内会・自治会で回覧していただいている他、羽村市民体育祭と同時開催をしている「健康フェア」へ推進員に参加していただいている。そこで培った知識や経験を地域に持ち帰り、健康の意識を広めていただくような取り組みも今後、検討していきたい。</p> <p>（評価員）健康づくり推進員の中に、「職域から選出された委員」とあり、事業所から選出されている委員もいるので、事業所への PR や出前講座は行っているのか。</p> <p>（説明者）職域からの選出は、商工会と農業団体協議会に推薦していただ</p>

いている。個人経営店など中小規模の事業所の方は参加も多いが、大きな事業所になると、なかなか協力が難しいところもあるようである。健康づくり推進員は、会議に出るだけでなく、地域に広めていくことが大きな役割であるので、健康づくり推進員には、事業PRなどの役割も担っていただき、効果的に地域に健康の意識を広めていけるような取り組みを考えていかなければならないと考えている。

(評価員) 30～50歳代などの働き盛りの方を対象とするには、講座を土・日曜日に開催することも必要であると思うが、こちらから事業所へ出向いて行き、健康について考えてもらうのも効果があると思う。大きな事業所の場合は、事業所内での研修会もあるかもしれないが、中小規模の事業所で健康に特化した研修会を開催することはなかなか難しいと思うので、出前講座が効果を発揮すると思う。働き盛りで疲れもある世代だからこそ、健康について向き合ってもらう方が効果があると思うので、出前講座の充実を検討していただきたい。

(説明者) 事業所に講座を開催する時間を取っていただけるのであれば、積極的に取り組んでいきたい。

(評価員) 単独の町内会・自治会での開催ではなく、複数の町内会・自治会が集まった開催も可能か。

(説明者) 提案をいただければ開催していきたい。

(評価員) 30～40歳代の若い世代に生活習慣病などの予備軍が多いという話も聞くので、若いうちから意識するように働きかけをしていく必要があると思うので、より一層の周知徹底が必要である。

(説明者) 多くの人に興味を持ってもらうのが課題である。「はむら健康の日」では、子ども対象のイベントを実施しており、親子で参加できるプログラムとしている。また、その場で試食ができる、健康料理のレシピ紹介など、体験できるイベントも行っている。多くの方に参加していただくため、継続的に広く周知していく必要があると考えている。

(評価員) 「はむら健康の日」は、骨密度測定などが順番待ちをするなど、多くの方が参加しているが、会場が狭く込み合っていることもよくある。せっかく多くの方が参加している事業なので、会場作りなどを工夫できないか。

(説明者) 毎年多くの方にご参加いただき、込み合っているのは承知している。保健センター自体のスペースが広くはないため、会場を屋外にすることなどを検討しているが、毎年、課題が変わっており、うまく対応できていない部分もある。会場の変更を含め、よりよい事業運営ができるよう検討していきたい。

(評価員) 「はむら健康の日」や「健康フェア」の参加人数が多いのは、自分の健康チェックが実際にできることが魅力的なのだと思う。頭の中だけで考えるよりも、一度自分の目で見た方が実感するので、年に2回程度で

	<p>はなく、健康チェックを行える機会を増やしてはどうか。</p> <p>(説明者) 自分の健康チェックができることが参加人数の増加につながっていると感じている。骨密度測定は特別な計器が必要なため難しいが、BMIや血圧などは「地域健康づくり講座」のように、地域に出向いて測定を行うことは可能なので、要望に応じて行っていきたい。</p> <p>(評価員) いつまでも行政主導の健康づくりではなく、地域で、自分たちで健康づくりの意識を広めていくことが必要であり、参加が少ない30～40歳代への呼びかけも行政だけではなく、地域の中から呼びかけていくことが大切になってくる。各地区での講座などは、ねらいを絞った勉強もできるが、健康チェックをするとすると、参加人数は、「はむら健康の日」などには到底及ばないので、多くの人が集まるイベントを充実させていくことが必要である。</p> <p>事業の成果については、目標を達成できたとしているが、どのようなデータを根拠に達成したとしているのか。</p> <p>(説明者) 朝早くから並ぶ方やリピーターの方も多く、アンケート結果についても好評である。リピーター以外の方の参加をどのように増やしていくかが課題である。</p> <p>(評価員) 荒川区の取り組みでは、健康寿命を一年延ばすプロジェクトを区内の栄養大学の協力を得て実施している。区内の飲食店に呼びかけ、安くてヘルシーな料理を提供し、食生活から健康を考えようと呼びかけるプロジェクトである。若者が興味を持てる内容の事業を考えていくことも必要である。イベント内容や呼びかけ方法など、少しの工夫で参加者を増やせることもあるので、検討していただきたい。また、30～60歳代の参加が少ないのは、町内会・自治会への加入率が低いこともあると思うので、町内会・自治会への参加を地域から呼びかけていけると良いと思う。</p>
<p>判 定</p>	<p>【評価結果：③】</p> <p>[2人] ①市が実施・充実（より一層の充実を図るべきである。）</p> <p>[4人] ③市が実施・改善が必要（ア：事業内容を見直すべきである）</p> <p>【主な意見】</p> <p>(1) 働き盛りの方の参加を上げるためには、内容の工夫や実施会場の変更など、改善が必要である。</p> <p>(2) 健康づくりのための良い事業であるので、30～40歳代が興味を持つような事業を企画してほしい。</p> <p>(3) 成果指標があいまいなので、数値や内容を具体的にするなど改善が必要である。</p> <p>(4) 行政主導型だけでなく、地域で進めていくことが重要である。</p> <p>(5) より一層の充実を望む。</p>